

経済指標ウォッチャー

米国CPI 6月は前年同月比+5.4%の大幅な上昇

物流網の混乱や原材料不足が解消されるかに注意

消費者物価指数 (CPI) とは？

CPIとは消費者が実際に購入する段階の、輸送・食品・医療などの消費財やサービスの価格（物価）の変動を表す指数。CPIの項目、構成比、算出方法には国ごとに違いがある。米国では労働省が毎月中旬ごろに公表する。物価変動の基調をみるために価格変動の大きい項目を除いたコアCPIが重視されることが多い。米国ではCPIからエネルギーと食品を除いて、コアCPIが算出される。

(参考：日本ではCPIから食品を除いてコアCPIが算出される)

CPIは前年同月比5.4%上昇

13日に米労働省が公表した6月のCPIは前年同月比+5.4%(市場予想同+4.9%)と前月の同+5.0%からさらに上昇しました。変動の大きいエネルギーと食品を除いたコアCPIも同+4.5%(市場予想同4.0%)と前月の同+3.8%から上昇しました(図表1)。

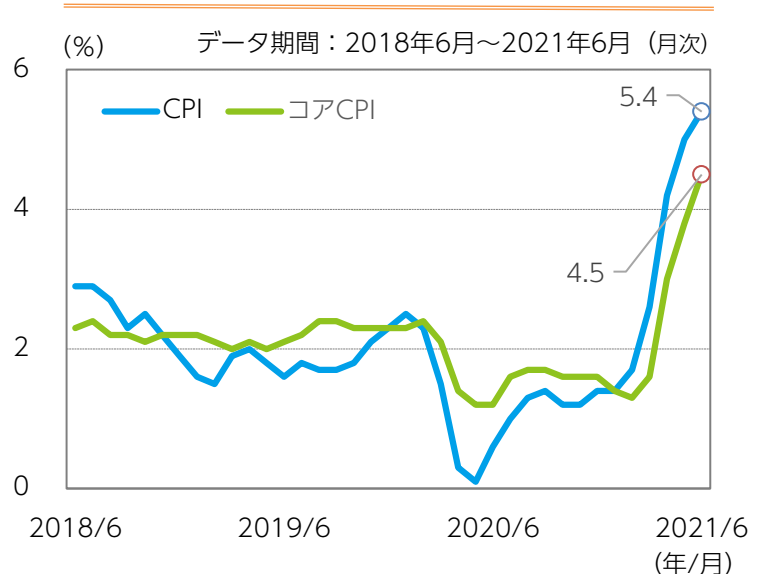
4月、5月に大きく上昇しCPIを押し上げた中古車、旅客運賃などが依然として高い伸びとなっています。

物流網の混乱や原材料不足に注意が必要

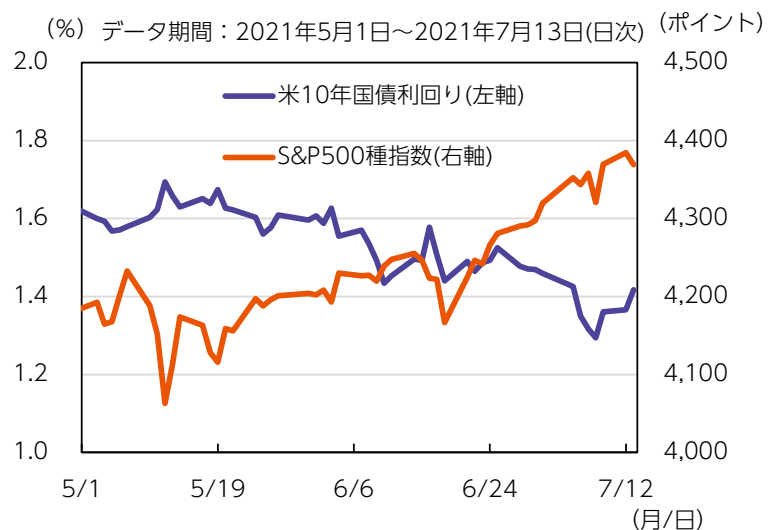
米国のCPIは5月に2008年8月以来、約13年ぶりに前年同月比で5%台の上昇となり、6月も5%を超える上昇となりました。市場では高水準の消費者物価が続いていることから、FRB（米連邦準備制度理事会）がテーパリング（金融緩和縮小）開始を早めるとの見方が再浮上し、米長期金利は上昇、株価はやや下落しましたが、市場の反応は比較的軽微なものとなりました(図表2)。

投資家の一部からはインフレ加速により、金融緩和が早期に終了するとの見方が改めて出てくることも想定されますが、FRBはインフレ率の上昇は一時的であるとの見方を繰り返しています。CPI上昇の主要因とみられ、高騰が続いていた中古車価格が落ち着きつつあることなどから7月以降は徐々にCPIは低下するとの見方が市場では優勢となっているとみられます。しかし、人手不足からくる物流網の混乱や原材料不足が、物価上昇を引き起こす可能性もあり、今後も注意が必要と思われます。

図表1：米国のCPIとコアCPIの推移



図表2：米国の株価と長期金利の推移



出所) 図表1、2はブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>